

内戦の「空白」を取り戻したい

ボスニアから来日した4人の医師
 岡山市のAMDA本部で



ボスニアの医師 日本で技術研修

AMDA
 の招きで

内戦後の混乱が続くボスニア・ヘルツェゴビナの医師4人が、国際医療援助団体、AMDA（アジア医師

で停滞していた医療技術の遅れを取り戻したい」などと抱負を語った。

ネボイシャ・ミランビッチ(31) 循環器内科▽スド

ラアコ・マリッチ(46) 腹部外科▽ミラン・ジギッチ

連絡協議会)の招きで来日、12日、岡山市のAMDA本部で会見し「内戦の4年間

部外科▽ミラン・ジギッチ

(31) 泌尿器科▽ミラン・ストヤコビッチ(33) 精神科の4人。いずれもセルビア人地域にあるゴラジュデ大学病院の医師。今月15日から受け入れ先の信州大や琉球大、北海道旭川市の旭川厚生病院などで1カ月から2カ月、医療機器の研修を受ける。滞在中はホームステイで市民との交流も深める。

4人によると、現地は内戦で医療機器の不足と医療技術の停滞が深刻化。2000床ある同病院にも使えないレントゲン撮影装置は1台しかないという。内戦で父と10歳の長男を殺されたマリッチ医師は「モノを与えるだけでない援助に感謝している。将来を見つめ、最新技術を身に付けて帰国し、役立ちたい」と語った。

AMDAは現地で医療援助を展開しており、菅波茂「招きたい」としている。